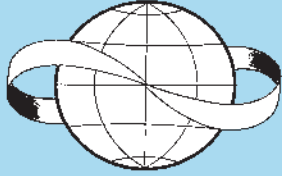


ヴェーナス通信

Venous (静脈) Venus (護美の女神)



商標登録第 4882482 号

第51号

発行 東多摩再資源化事業協同組合
理事長 紺野武郎 編集長 吉浦高志
東京都東村山市久米川町1-16-18
TEL: 042-395-9788
FAX: 042-395-9787

進化する情報化社会

平成七年八月二十五日マイクロソフト社が、インターネット時代の幕開けに貢献したオペレーティングシステム、ウィンドウズ95英語版を発表した。

一般加入者回線（アナログ回線・ISDN回線）を利用したダイヤルアップ接続から、常時接続が可能なブロードバンドが進み、スマートフォンからもインターネットに接続できる時代になった。文章を読む「テキスト」から、映像を楽しむ動画投稿サイト「youtube」、コミュニティ型サイト「mixi」「facebook」、ツイートと呼ばれる短文を投稿し閲覧できるコミュニケーションサービス「twitter」等、サービスの幅が大きく広がった。

ネットが世界を変える

生活にかかせない存在となったインターネット。新しいコミュニケーションの形を手に入れたユーザーは、まだその力の大きさを理解しきれていない。「mixi」や「twitter」で学生の飲酒・喫煙、無免許運転を書き込み、店員が芸能人の個人情報を漏洩するなど問題になっている。「youtube」に

senkoku38 と名乗る人物が沖縄県・尖閣諸島沖で起きた、中国漁船衝突事件の事故映像を投稿し世間を騒がせ、「facebook」の呼びかけで集まったデモによって、三十年近く独裁政権を続けたムバラク大統領が辞任に追い込まれ「エジプト民主革命」が起きた。情報の持つ力は世界を変えてしまうほど大きなものなのだ。

非常事態時のネットは どう働いたか？

三月十一日に起きた東日本大震災で電話が不通になったとき、メッセージを「twitter」で残すことができた。しかしそれと同時にデマが拡散された。

日用品、ガソリンが無くなる。それを信じた人々が、震災直後列を成し我先にと買い漁った。「千葉県で汚染物質が付着した雨が降る。」「埼玉県の水道水が危ない」、冷静になって考え、その情報を自分の中で消化し、検索や関係省庁に問い合わせるなどして事実確認をするはずだが。

情報を「与えられる」ことに慣れてしまった弊害で、考えることを放棄してしまった結果、デマにおどらされてしまう。

専門家や情報機関は、不確かな情報が流すことが出来ず、事実確認が出来るまで断言できない為、答えが見えなくなる。しかし、友人からの関係者を名乗る人から回ってきたとされる断言的なメッセージが回ってきたら信じてしまう。ゲートは「今日は忙しかったから短い手紙は書けなかった。」と言った。簡潔な文章を綴る事は本当に難しいのだ。

紙を使った

コミュニケーション

手書きの手紙は何度も読み返し、整理して相手を思いながら、自分の字で送れる。手間も時間もかかる分だけ、大切な気持ちも送れるのではないだろうか？辞書を引く魅力もある。目的の単語のページを見渡せば、知らなかった単語の意味も知ることが出来る。文字を書かなかつたら、漢字を書けなくなってしまう。紙にしか出来ないことがある。再生原料を使用し、製造時の環境負荷が少なく、繰り返し使え、廃棄がしやすく、再生原料として再利用できる『古紙』リサイクルの優等生と言われる紙を使って、コミュニケーションのあり方をもう一度考えてみてはどうだろうか。（水野敬一）

リサイクル適性 (A)

直言拝聴

古紙業界の若きリーダーに聞く

日本再生資源事業協同組合連合会
有限会社 武井紙業

青年部長
代表取締役 武井大輔



両親が興した古紙問屋を継ぐべく、この業界に飛び込んで十一年目を迎えました。幼い頃から家業を継ごうという意識が薄く、自分の興味のある業界で働いていきたいと考えていました。就職活動を始めた頃にふと年々老いていく両親と家業が心配で堪らなくなり家業を継ぐ決心をしました。大学卒業後、何処か他所で古紙の仕事を学びたいと父親に申し出て、知人に紹介していただいた大阪の老舗古紙問屋の靖国紙料さんで修行させていただきました。靖国紙料さんは印刷、製本会社から発生する上物古紙を中心に多品種の古紙を取扱っており、二台の古紙ペーラーの間を走り回っては、地面に膝をつきながら必死で古紙の選別を覚えてきました。現場作業で最初に先輩に叩き込まれたのは、持込業者さんに対する挨拶でした。「毎度、おおきに、は絶対に欠かさな」と厳しく教え込まれ、慣れない大阪弁と独特でリズムミカルな会話に戸惑いながらも、「この仕事はお客様あつての商売なんだ」と強く感じ、現在の私の仕事に対する基礎になりました。今でも時々、靖国紙料さんの竹内社長にお会いしますが、恰幅の良い体から発せられる景気のよい大きな声で話しかけ

られると自然と背筋がピンとなり身が引き締まる思いがします。

大阪での修行を終えて、二五歳で家業に入りました。当時は、社員も五、六名で両親共々昼夜、休日を問わず仕事に明け暮れていました。古紙の相場も低迷していた頃で、持込業者さんからの仕入値も所謂七五三価格を下回っていたように記憶しています。引取の古紙も逆有償がほとんどで、父親としばしばお客様の事業所に頭を下げて回っていました。逆有償に頑として応じていただけなお客様に頭を抱える日々が続いていたように思います。相場が高騰した時の話も聞いていましたが、私にとっては、いかに安く古紙を処理できるかが営業活動のスタートになりました。

その後、古紙の輸出が本格化するに従い古紙相場も回復し、逆有償をお願いしなくても古紙を仕入れられるようになり、仕事をいただいてお客様に感謝される喜びと事業の面白さを感じるようになりました。古紙の輸出が年々安定化すると売り先には困ることはなく、集めた古紙が飛ぶように売れていきましたが、同時に「他の商売ではありえない」「これが当たり前

だと思っていいたら痛い目にあう」とも感じていました。

案の定、仕入れ競争が過熱し始め、新規参入、異業種参入が活発化し持ち去り被害も頻発し始めました。古紙相場が低迷していた時に経験した苦労がほとんど報われず、美味しい所だけ持っていられるという経験を嫌というほど味わいました。この頃から、相場や価格に左右されない、高くても安くてもお客様に選ばれる会社作りをしようと志すようになりました。

ISOとプライバシーマークを取得し、社員教育にも力を入れるようになりました。コンプライアンスにも気を遣い、機密書類の処理事業にも注力し、他社との差別化に全力を注ぎました。



群馬県伊勢崎市の(有)武井紙業

群馬の再生資源組合青年部に入部したのは、家業に入ってから一年程経った頃でした。誘っていただいた先輩には「仕事の話や堅苦しい事は一切抜き。同じ業界の若手が和気藹々と酒を飲んだり懇親を深



(有)武井紙業のホームページ
http://r-takei.co.jp

リーマンショックの翌年、代表取締役役に就任した頃には、社員も二十名程になり、私の後から入社した若手の社員も徐々に成長し、少しずつ目標を共有できる纏まりのある会社組織になってきたかと実感できるようになりました。ここ数年、若手の社員が続々と結婚しました。不安定な時代にも拘わらず、所帯を持つ決意をした彼らの期待には応えていかなければならないと日々感じています。

群馬県青年部長の任期が終わる頃、当時の日本再生資源事業協同組合連合会の背尾青年部長から次

める会だから」と言われ、気楽な気持ちで入部しました。私の所属する伊勢崎支部の部員は実質的に私一人だけで、青年部活動イコール群馬県連青年部の活動でしたので、あまり支部間の垣根を気にすることなく、マイペースに交流を深めることが出来ました。同じ業界の歳の近い仲間と悩みや喜びを分かち合える唯一の場所でしたので、青年部の会議や事業、懇親会等は現在でも皆勤賞を継続しています。

入部して六年目に群馬県の青年部長を務めさせていただきました。あまり人の上になつてリーダーシップを執るタイプではありませんが、この会をもっと盛り上げたいという気持ちと組織を運営するスキルをアップさせたいという思いで務めさせていただきました。先輩や仲間の支えもあって、大変充実した部長職をこなすことができました。また、群馬県青年部の代表として他県の再生資源組合青年部の皆さんとも交流を深め、地域ごとの多様な業界環境を学ぶことができました。

期は、頑なに断り続けていきましたが、各県の青年部長の皆さんにも推され就任させていただきました。歴代最年少の青年部長ということ、経験不足から配慮に欠ける点が多く、皆さんにご迷惑をかけてばかりですが、懸命に職を全うしたいと思います。

日本再生資源事業協同組合連合会の青年部長就任当初から「ITネットワークの活用」に注力しており、各地の青年部員のメールマガジンをトやブログを通じてのタイムリーな情報の共有は少しずつ形になってきたように感じています。東日本大震災の発生時には安否確認や情報共有に大いに活用され、一定



日資連青年部長として挨拶

の成果を上げられたかと思えます。また、九月の中旬には各地の青年部員の有志を募り、被災地へのボランティア活動を実施する予定です。現在、三十名近くの仲間が参加を希望し、復興の一助となるよう意気込んでいます。

再生資源や廃棄物処理の商売の面白いところは、お客様の来店や事業所の裏口で仕事をするところだと考えています。お客様にしてみれば、あまり他人に見せたくない場所で不要な物の片付けを任せるのですから相応の信頼関係の構築が求められます。そこにこそこの商売の醍醐味があるのだと思います。信頼されて初めて任せられる仕事に誇りを持ち「毎度、おおきに」の心意気を忘れずに商売に励んでいきたいと思えます。



日資連青年部長ブログ更新中！
上は被災地視察報告の日記

地元自治体へ資源持ち去り禁止

条例制定・強化を要望！

●「古紙持ち去り問題の根絶をめざして」

古紙持ち去り問題は当業界が長年にわたり直面してきている大きな問題となっている。

古紙持ち去り行為は、現在では全国に及んでおり、禁止条例に基づく防止対策の網をかくぐって、組織的にかつ常習化、巧妙化し深刻な状況にある。

こうした事を受けて東京都環境局では、昨年十一月に「古紙持ち去り問題協議会」を発足し、リサイクル業界全体での実効性のある対応策の検討を開始した。協議会の古紙持ち去りの根絶をめざした方針を受け、当組合は小平市・東村山市・清瀬市・西東京市・東久留米市の各々に、古紙持ち去り業者根絶に向けた条例改定、及びの早期条例制定、又条例に伴うパトロールの業務委託の要望書を提出した。要望書の内容は①行政回収で出された資源物の所有権の帰属、②市指定の回収業者以外の収集・運搬の禁止・③集団回収の持ち去り行為の禁止④二、三の行為を犯した者に対する罰金、又は過料を科す

⑤前項の規定による命令をうけたが、それに従わなかった時のその者の「氏名公表」をする、といったことを掲げて各市を回った。

各市とも持ち去り行為に対しては懸念を示していて要望書の内容に関しても一応の賛同を得ることが出来たと思う。特に「氏名公表」には効果が期待できるのでとの意見も多く頂き、パトロールに關しても、当組合で今年三月に全行政回収車に導入したドライブレコーダーの話を話し、前向きに検討をお願いした。パトロールは警察の協力が必要で、担当区域警察署にもパトロールに際しての指導協力を要望する準備をしている。

●（社）東リ協会主催の「資源持ち去り対策フォーラム」に参加

このような中で、七月二十一日、日暮里ホテルラングウッドで東リ協会主催の資源持ち去り対策フォーラムが開催された。

フォーラムの冒頭では東京都環境局廃棄物対策部部長木村尊彦氏より、「古紙持ち去り問題対策協



議会」の設立にあたり、その経緯と主旨が説明され、古紙持ち去り行為の根絶に向け行政・回収業者・製紙メーカーの連携による古紙持ち去り根絶に向けた4つの行動として次のような取りまとめ方針が発表されました。

まず、これまでの古紙持ち去りとして防止のとりくみを着実に進めることとし、①多様な回収ルートを地域の特性に応じて選択する。②行政持ち去り禁止条例の制定と拡大を目指す。

次に、新しい古紙持ち去り防止システムを構築するとし、③古紙業界による持ち去り古紙の排除の取り組み、④全ての関係者間の情報共有するという4つの行動案が示され、この取り組みを通じて持ち去り行為の根絶を目指すとともに、都道府県及び政令指定都市な

ど全国に発信してゆくということが報告されました。

このあとフォーラムはリレー方式で進められ、行政、古紙再生促進センター、古紙回収業界、古紙問屋業界、市民団体の関係機関から古紙持ち去り防止の具体的な対応策や今後の課題についての報告をされました。最後に閉会の挨拶で（社）東リ協会常務理事市川哲也氏が「古紙問屋が持ち去り品の受け入れをしなければすぐに解決すること」と話したことで我々業界も襟を正す時が来ているのではないかと感じられるフォーラムが終了しました。

東京都の古紙抜き取りの根絶をめざした方針を受け、当組合は小平市・東村山市・清瀬市・西東京市・東久留米市の各々に、古紙持ち去り業者根絶に向けた条例改定、及びの早期条例制定、また条例に伴うパトロールの業務委託の要望書を提出しました。

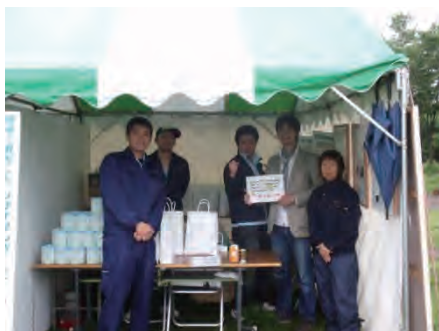
永年の懸案事項である持ち去り問題解決には我々の強固な意志がなければならぬと、同時に業界、行政、市民、警察などの協力が不可欠だと思います。

「持ち去り問題の根絶を目指し」ご協力をお願いします。

各市でリサイクルイベント
に出展しました!

五月に清瀬市、西東京市、六月に東大和市、東久留米市でそれぞれ環境・リサイクルに関するイベントが開催され、当組合もブース出展をしてみました。

展示物は、従来の古紙の分別等に関するパネルに加え、集団回収の促進に関するポスター、現在深刻な問題になっている『古紙や古布の持ち去り問題』に関するポスターを掲示しました。



西東京市・環境フェスティバル

そして、掲示内容に関連するクイズを参加して頂いた市民の皆様様に挑戦して頂きました。多くの皆様に参加して頂くため、一人一問をレベル分けして用意したので、



東大和市・環境市民の集い

大人から子どもまで幅広く楽しんで頂きました。

クイズの景品は毎年恒例の当組合ブランドのトレットペーパー『ブーメラン』でした。
それでは読者の皆様にも問題です。じゃがじゃん。

問題① 紙マークが付いているのに

リサイクルに適さない紙がある。○か×か?

問題② 磁石に付くのはスバリ!

A. アルミニ缶

B. スチール缶



各市でリサイクルイベント
が開催されます!

秋に入り、各市でリサイクル関連のイベントや市民まつりが開催されます。左記のイベントには、当組合も出展予定です。お越しの際はぜひお立ち寄り下さい。

★★各市のイベント開催予定★★

- ①9月10日(土) 小平市エコフェスティバル
開催時間 10時~14時 @小平市福祉会館 雨天の場合11日(日)
- ②10月16日(日) 清瀬市民祭り 10時~17時 @けやき通り
- ③10月23日(日) 東村山市環境リサイクルフェア
開催時間 10時~14時 @東村山市役所駐車場
- ④11月12-13日(土・日) 西東京市民まつり
開催時間 土10時~16時 日9時~15時30分
@いこいの森公園

トレットペーパー
「ブーメラン」
(65m巻き・100個入り)

1ケース3,000円(消費税・配達料込み)です。
※注文は1ケース単位です。

※尚、配達地域は以下の地域に限定致します。
(小平市・東村山市・東久留米市・清瀬市・西東京市・東大和市)
ご注文は当組合までお願いします。

TEL : 042-395-9788
FAX : 042-395-9787

東久留米市が、「湧水・清流保全都市宣言」を発表！

去る平成二十三年六月十一日（土）、午前十時より開催された東久留米市環境フェスティバルにおいて、馬場一彦市長が、この度制定した「湧水・清流保全都市宣言」を発表した。

この宣言は、平成十年十一月の「緑の基本計画」を策定する中で、「湧水のまち・東久留米」として、全国で初めて検討したことが始ま

りである。その後、平成十七年六月に「湧水等の保護と回復に関する条例」を制定し、また、平成二十年六月には、環境省から、落合川と南沢湧水群が、平成の名水百選に選定される等の経過に基づき、検討会が設置され、市の環境審議会や、市民環境会議で繰り返し検討が進められ、平成二十二年十二月の「湧水保全フォーラム全国大

湧水・清流保全都市宣言

私たちのまち東久留米市には、黒目川・落合川・立野川を代表とする、湧き水による幾筋もの川があります。縄文の時代より人々はこの清き水に集い、やがてむらやまちがつくられ、暮らしが営まれてきました。

時は移り、都市化と生活様式の変化により、みどりや湧き水が減り、川が汚れた時期もありました。しかし、人々の努力によりその流れを絶やすことなく、清らかさを取り戻した湧き水の流れは清流に集まる生き物を育み、市民に潤いと安らぎを与えるとともにまちの象徴にもなっています。

東京で唯一、「平成の名水百選」に選ばれた川が流れる東久留米市で暮らす私たちは、まちを潤す湧水と清流を誇りとしています。私たちは、このすばらしい環境を次の世代によりよいかたちで引き継いでいくために、樹林や農地のみどりなどが、地下水を豊かにし、湧き水と多くの生き物の命を育てている仕組みを大切に、今後も市民・事業者・行政が力を合わせて湧水と清流の保全に取り組んでいくことを宣言します。

2011年（平成23年）6月11日
東久留米市



宣言を発表する
東久留米市の馬場市長

会inひがしくるめ」の開催や、同月の宣言案のパブリックコメントの実施等を経て、平成二十三年三月に、市の環境審議会から市長に最終答申され、決定したということである。

宣言の発表に際しての市長の挨拶・関わった市民の挨拶、及び専門家による基調講演と、宣言の全文は、次の通りである。

①馬場一彦市長の挨拶

「湧水・清流保全都市宣言」は、平成十年十一月に策定された『東久留米市緑の基本計画』の中の重点事業の一つに位置付けられています。

あれから十年以上の検討を経て、「湧水・清流保全都市宣言」を今日発表できたことは、市の代表として大変うれしく、誇らしく思います。

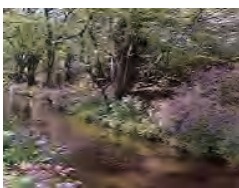
この清らかな流れを次世代に引き継いでいくことは、私たちの責任であり、みんなで力を合わせて守っていききたい。本日そのための第一歩を歩み始めました。

②市民環境会議座長・豊福正己氏、及び「湧水・清流保全都市宣言」検討会座長・三戸茂氏の挨拶

宣言は、湧水・清流を保全し、次世代に引き継いでいくための大きな一歩で、大変うれしい。

③基調講演「持続可能な地域と湧水」（法政大学教授・東久留米市環境審議会委員 山田啓一氏）

縄文人は、どんぐりなどを煮沸し、湧水で水さらしをし、食料にした。これは、縄文人の知恵であり、それまでの時代とは違った生活が始まった。現在、落合川・黒目川の流量の測定結果を見ると、減少してきている。一般宅地内に降った雨水を大地に還元させることが大切である。市民の皆さんに協力をお願いしたい。農地・樹林地・屋敷林の保全には、一般市民と農業関係者の連携（地産地消の関係）が必要である。これからは、専門的・組織的・具体的な施策を考えていってほしい。最も大切なことは、市民の皆さんが湧水にかける『愛と慈しみ』である。



東久留米市・
野火止用水

コラム

「AEDについて調べてみた」

先の『ヴィーナス通信第四十七号』で、当組合が昨年四月より、各組合員、及びリサイクルセンターにAED(自動体外式除細動器)を設置したこと、また、設置事業所の従業員が、路上で倒れていた男性を、AEDを使用して、救命活動を行ったことを掲載した。また、昨年は、当組合の補助を受け、私の勤める事業所にもAEDを設置した。ただ置いてあるだけではと思い、先日、従業員二名を小平消防署の講習会に参加させた。

しかしながら、本年八月四日に、サッカー日本代表の松田直樹選手が急性心筋梗塞で倒れ、亡くなった報道を受けて、AEDへの注目が改めて高まっているようだ。首都圏にある大手企業は、工場にAEDの複数設置を検討し始めたほか、AED普及を進める団体にも問い合わせが殺到しているらしい。でも、AEDって、全国に何台ぐらいあるのか? いくらで買える

のか? 適確に使用などAEDの疑問を調べてみた。

AEDの普及、啓発を推進する厚生労働省医政局指導課では、09年度までの国内のAED設置数を二七万二〇一四件と発表している。NPO法人「AED普及協会」は「年間約四万台ずつ増えているがこの二年で八万台増えたとして、およそ三五万台が設置されているはずだが、まだまだ少ない」と訴えている。

国内でAEDを販売するのはわずか四社しかないようだ。価格は一台三〇万〜五〇万円で、まだまだ高価な医療機器だ。購入に関する法的助成はなく、AEDの使用方法的講習会開催に関して「医療提供体制推進事業費補助金」という名目で金銭的な助成が若干あるだけ。設置するには、金銭面でのハードルが高いのが現状らしい。全国で約一五万台を販売した日本光電という企業によると「有効に使われるかが問題。電気ショックを加えるだけで蘇生するのではなく、心臓マッサージなどをしていただきたい。その意味でも講習会などを定期的に行うことが重要」と話している。また、別のメーカー担当者は「大きな会社に1台では、助かる命が助からないかもし

れない。理想はビルならば各階に1台はほしい」と話している。

また、機種によって違うが、使用する機会がなくても、四年に一度はバッテリーを、二年ごとに身体にはるパッドを交換するなどの管理・維持作業も必要だ。AED普及協会は「二四時間開いているビジネスホテル、ファストフード店、コンビニなどが積極的に設置して『AEDあります!』というような看板設置なども考えないといけない」と今後の課題を挙げているようだ。

当組合としても、本年十一月頃改めて、全組合員を対象に講習会を予定しており、今後とも、もっと皆さんにAEDの重要性を理解していただく運動を進めて行きたいと思う。(福田)

最後まであきらめない (never give up)

最近、『最後まであきらめない』という言葉が、ブームになっている。

もともとは、人間が物事を最後まであきらめずに、粘り強く行うという、極めて普通の考え方であった。

しかしながら、今年三月十一日に発生した、「東日本大震災」において、「これから何年、何十年かかっても最後まであきらめずに復興する」と、地元の被災者の方々が唱えられたことにより、その言葉の重みを改めて実感した。

その後、七月に、女子サッカー『なでしこジャパン』が、ワールドカップ大会で、強豪のドイツ・アメリカ等を破って優勝したが、その際の優勝インタビューで、主将の澤穂希選手が、「選手全員が、相手に先に攻撃され、得点を取られても、最後まであきらめずに粘り強く食らいついていった結果、優勝できました」と答えていた通り、日本チームが、『最後まであきらめない』の精神で戦い、日本全国に元氣と勇気を与えた。

また、今年の夏の高校野球甲子園大会(第九十三回全国高等学校野球選手権大会)では、八回までリードされながらも、九回に驚異的な粘りを発揮し、劇的な逆転劇を演じているチームが数多く見受けられる。

さて、我々リサイクル業界はどうだろうか。

近年、横行している「資源物の持ち去り問題」は、一向に解決の兆しが見られない。



Never give up!

昨年十一月に、東京都の「古紙持ち去り対策検討協議会」が発足し、本年六月には「古紙持ち去り問題根絶にむけた取組」を発表し、また、七月には、(社)東リ協会主催のフォーラムが開催され、「古紙持ち去り問題」の現状と対策について活発に議論された他、当組合でも、八月上旬に、資源物の持ち去り禁止条例の制定や強化をお願いする要望書(詳細は別頁参照。)を地元各市に提出した。

ともあれ、我々リサイクル業界も、それこそ「東日本大震災」からの復興や、スポーツ界の活躍を見習い、『最後まであきらめない』という強い精神を持って、「資源物の持ち去り問題」に対処していかなければならないと思う。

(柿崎正則)



「東久留米市・柳窪地区

(黒目川上流)」

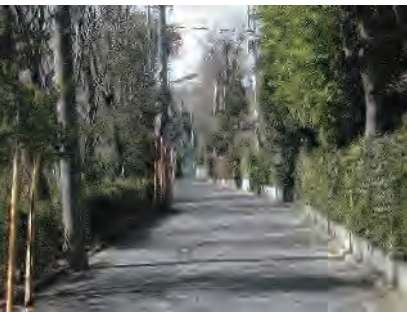


「さいかち窪」

東久留米市・柳窪地区は、市内から、埼玉県新座市・朝霞市を流れ、新河岸川へ合流している黒目川の上流に位置しています。

柳窪地区には、黒目川の源流といわれる「さいかち窪」(柳窪三丁目)、「黒目川天神社」(柳窪四丁目)、及び旧集落と屋敷林の風景といった三つの散策ポイントがあります。

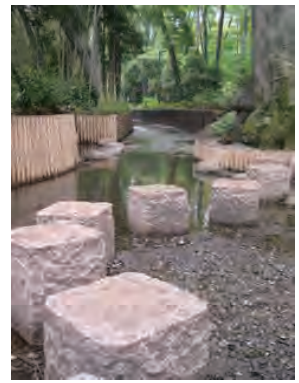
「さいかち窪」は、東久留米市と、東村山市・小平市の境界に位置する「小平霊園」の一角の、雑木林に囲まれたくぼ地のことです。



柳窪地区の旧集落と屋敷林に囲まれた通り

かつては、林の中の湧水が黒目川の源流となっていました。現在では枯れてしまっていますが、雨の降った後等には、時として「幻の湧水」といわれる水を見ることができ、湧水を見ることが出来るのもあり、湧水を見ることが出来る」と長生きすると云われています。

「黒目川天神社」は、黒目川沿いに建立された神社で、市内の竹林公園、南沢緑地とともに、『東京の名湧水五十七選』に選ばれた水源を持つ場所です。階段上の鳥居の脇には、「しだれ梅」が植えられており、境内には、市の有形文化



「黒目川天神社」の湧水



「黒目川天神社」

財に指定されている「柳窪梅林の碑」があります。また、「黒目川天神社」の近くには、市の指定文化財である、庚申塔・石橋供養塔・地藏菩薩等の道祖神も見ることが出来ます。

旧集落と屋敷林の風景は、「黒目川天神社」の周辺に広がっており、広大な旧家の生垣や、屋敷裏の竹林、見上げるようなケヤキの大木に囲まれた通りは、生い茂った葉が、光を遮り、鳥のさえずりや葉と葉がこすれる音も聞こえ、真昼でも神秘的な雰囲気漂っています。

大都市東京において、このような、昔を偲べる湧水と自然に恵まれた柳窪地区を、一度散策してみたいかがでしょうか。

ヴィーナス短信

第三九回 日資連全国大会開催

去る平成二十三年六月二十四日、群馬県渋川市のホテル小暮にて、第三九回日資連全国大会が開催された。昨年の沖縄大会に続き、今年度は日資連上岡会長のお膝元、群馬での開催となった。

定刻の十四時、司会からの開会宣言に続き、上岡克己会長の挨拶の後、ご来賓の紹介となった。

ご来賓からは、群馬県副知事、池本武弘様、全国中小企業団体中央会製作推進部長、及川勝様の御両名からご祝辞をいただいた。

続いて祝電の披露、第39回通常総会の報告、大会決議の宣言、次回大会の開催地を東北六県再生資源組合連合会が設営を担当することが発表され、滞りなく閉会の辞となった。

休憩を挟み、第二部の記念講演として「日本政治の展望」と題し参議院議員、自由民主党政策審議会議長、山本一太先生からご講演いただいた。普段なかなか語られない、永田町の事情や、政治家の方々の裏話が聞け、大変楽しいご講演となった。

その後、アトラクションとして、

「Ciel」の御両名による演奏会が行われ、懇親会へと続いた。懇親会では普段なかなかお会いできない、他県の方々とお酒を大いに楽しみ、無事中締めとなった。

「ポイント制古紙回収システム設備を見学」

国際紙パルプ商事(以下KPP)と名古屋市に本社を構える(株)ジェネシスが協業し、スーパーマーケット等にポイント制古紙回収システムの設置を進めているようだ。日資連の全国大会の開催地近くで、日資連青年部の武井部長が大手スーパーマーの「ヤオコー・高岡高関店」の回収をしていると聞き、早速見学させていただいた。

まず、現地に到着して驚いたのが、広大な駐車場の敷地である。普段、都内で買い物をする私は、駐車場と言えば立体駐車場の店舗が多く、あれだけの広さを持つ駐車場は滅多にお目にかかれないと感じた。武井部長に説明をしていただいで、この回収システムの秀逸さに再び驚いた。

昨今、我々の業界は集荷物である古紙の発生量の減少に各社、頭を悩ませている。当然、我々回収業者然り、製紙メーカーに納入する

KPPのような大手商社も当然危機感を抱いている。設置を進め、システム・設備の拡販を進めたい(株)ジェネシスのようなメーカー、ポイントの有効に集客に結び付けたいと考える、スーパーマー、4者がまさにWIN・WINの関係だ。さらに言えば、車で買物をすることが多い、消費者は大きな手間の関係者にプラスになる回収システムだと感じた。

立地の面で難しい問題もあるだろうが、初期設備資金や、数段回収や行政回収を実施していない地域では、全国的にはほとんど普及が進んでいくと感じた。



平成二十三年度 集団資源回収団体連絡会

五月二十三日に東村山市市民センターにて「資源回収を楽しく進める会」の副会長として青年部水野幹事が、紺野理事長と共に「集

団回収団体連絡会」に参加しました。

「資源回収を楽しく進める会」とは、東村山市資源循環部と連携して集団資源回収の推進や、環境に優しいイベントの開催、リサイクルに関する施設見学会の実施などを行っている非営利団体です。

資源循環部西川部長より「震災地のごみを、都内、神奈川県で処分している。それらで処分できない分は多摩地区に依頼が来ている。

今までの処理の仕方では処理しきれないので、集団回収の団体数を増やしてごみ減量をしていきたい」とご挨拶を頂きました。

その後集団回収団体の役員の皆様に対し、資源回収の昨年度の実績等を報告をしました。

質疑応答では活発な意見交換が行われ、資源物の持去り問題、古紙・古布価格の現状が話しあわれました。参加して頂いた皆さんの集団回収に対する意識の高さを感じました。

今年よりアルミ缶も補助金対象となりましたので、報告書の記載方法が若干変更となりましたのでご注意ください。

各団体の皆様の御協力により、集団回収は円滑に行われています。今後も文字通り、集団回収を楽しんで進められるよう努力してまいります。

一 ページ目のメッセージ
担当者変更になりました。

「ヴィーナス通信」一ページ目の拙文を第五〇号まで連載させて頂きました。今号より編集員に順番に書いてもらうことに致しました。

若い人の物の見方・考え方を、できるだけそのままに掲載させて頂きます。ご意見やお気づきの点などございましたらご一報下さい。スマホ(スマートフォン)族にしか書けないメッセージを、ラクホ(らくらくホーン)族としても謙虚に聞き、頭の中をリフレッシュする機になればと思います。

因みに、**スマホ族**に対して**ガラホ族**とも言うそうです。

【ガラパゴスホーン族】普通の携帯電話しか持っていない人種。だとか・・・
長期間お付き合いを頂き感謝いたします。
ガラホ族・紺野

行事・行動

【六月】

- 五日：東大和市環境市民の集い
- 八日：東資協理事会
- 一〇日：定例理事会
- 一日：東久留米市環境フェスタ
- 二日：東久留米市環境フェスタ
- 三日：小平RC責任者会議
- 五日：古紙C理事会業務委員会
- 七日：中央会・組織委員会
- ：官公需検査委員会
- 二三日：(社)東リ協会理事会
- 二四日：日資連全国大会(群馬)
- 二八日：中央会・役員会

【七月】

- 八日：東資協・理事会
- 一日：定例理事会
- 三日：小平RC責任者会議
- 四日：古紙持去問題意見交換会
- 五日：(社)東リ協会・製紙連懇
- 六日：日資連・理事会
- 八日：財務委員会
- ：業務委員会
- 二一日：(社)東リ協会・理事会
- ：R・フォーラム
- 二七日：古紙C業務委員会
- ：西東京市・廃棄物減量審

【八月】

- 二八日：中央会・役員会
- 三〇日：組合員家族慰安会
- 三日：東久留米市廃棄物減量審
- 四日：広報委員会
- 八日：東資協理事会
- 一日：定例理事会
- 六日：(社)東リ協会・理事会
- ：清瀬市・廃棄物減量審
- 八日：広報委員会
- 二二日：西東京市・廃棄物減量審
- 二五日：業務委員会
- ：広報委員会
- 三一日：集団回収委員会

【九月】

- 四日：関資連・総会(横浜)
- 八日：東資協・理事会
- 一〇日：小平市エコフェスタ
- 二日：定例理事会
- 三日：古紙持去問題意見交換会
- 六日：清瀬市・廃棄物減量審
- 二〇日：(社)東リ協会理事会
- 二六日：東久留米市廃棄物減量審
- 二九日：古紙C業務委員会
- ：西東京市・廃棄物減量審



編集後記

今号に御寄稿下さいました武井様、大変有難う御座いました。私も親の指示で家業を継ぐことになりましたが、仕事に対する意識はもっと低かった様な気がします。若い時代に自分の携わる仕事の面白さや、やりがいを見つけられることは商売の発展と自身の成長にも大変重要なことです。益々の発展を期待します。

円高の影響で輸出品の競争力が落ちていくそうです。先日読んだ新聞記事に「昨日の生活を維持しようとするならば今日の競争に勝たなくてはならない」と、アメリカの偉い人の発言が載っていました。商売をしていると、なるほどと感じたりもしますが、私共の業界ではウインウインも大事なのではと思います。

最近古紙の発生が景気低迷とネット普及の影響で落ち込んでいますが、無益な競争は避けて頑張つて行きたいです。今号の一面は理事長に変わって青年部員が執筆しました。年令のために理解し難いカタカナが多い内容ですが、時代を現していると思います。これからも広報委員全員が一面執筆に挑戦して参ります。

吉浦